

城南 高・丹生宮

貝塚や古墳など多くの史跡が残り、南区の中でも特に歴史の深いまち城南。そんな城南町の杉上校区の中を、歴史と自然を味わいながらゆっくり散策できるコースです。いろいろなところにまちの歴史が息づいています。

① 高の石造宝塔

チェックしながら → 

(熊本市指定有形文化財)

鎌倉時代に建てられた凝灰岩製の供養塔です。下から、基礎石・塔身・方形笠・宝珠の四部から成ります。基礎石に正応4年(1291)の銘文が刻まれています。各部分すべて異なる制作年代と考えられ、塔身が最も古く鎌倉時代の特徴を有しています。塔身の四方には金剛界四仏と思われる座像が刻まれ、基礎石にはそれぞれの仏をあらわす梵字と建立された理由が刻まれています。

② 高の石造六地藏塔

(熊本市指定有形文化財)

六地蔵は六体の地蔵菩薩を彫り込んだ石仏で、高さは約3m45cmあり、県下最大級の大きさです。今から約540年前の室町時代のもので、幢身は文明6年(1474)に建立され、中台、龕部ちゅうだい がんぶ、かさ うけばな笥はうじ、請花、宝珠は江戸時代の延享5年(1748)に城南町の旧高村の人々によって復元されたことが知られています。



高の石造六地藏塔



高の石造宝塔

③ 石造宝塔身(三方仏)

大きな木の根元に、小さな石造りの仏様が祀られています。昭和41年に、800年の記念碑が建てられていますので、
 永く地域で大事にされてきていることがわかります。地元では「がらんさん」と呼ばれているそうです。



がらんさん(石造宝塔身)

みやべすなお
④ 宮部寸七翁の墓

明治20年に城南町に生まれ、熊本ゆかりの俳人として有名な宮部寸七翁の墓です。早稲田大学卒業後、志願兵として入隊、除隊後新聞記者として頭角を現すも、筆禍事件で投獄されるなど、波乱に富んだ人生だったようです。大正15年没。その後出版された「寸七翁句集」の序文に、師であった高浜虚子が「かくの如く佳句の多い一家の集は、きわめて稀に見るところである。」と賛辞を寄せています。



宮部寸七翁の墓

⑤ でっかい水道?!

水路沿いに歩いてみると、大きな蛇口にびっくりします。農業用水路の水量を調節するためのものだそうで、実は、南区内ではそうめずらしいものではないとのこと。農業がさかんな南区ならではのですね。



丹生宮堰

6 丹生宮堰

緑川にかかる城南橋と釈迦堂橋の間に、利水
目的で設けられた施設です。緑川は河川敷が
広く、畑があるところもあるくらいなのですが、
この辺りは堤防と川の距離が近く、川の流れを
身近に感じることができます。



丹生宮のお祭り記念碑

⑦ 丹生宮のお祭り記念碑

堤防沿いの土手に、4つの記念碑が建っています。碑文を見ると、50年祭、100年祭、150年祭、200年祭の記念碑となっています。地域では、毎年9月1日にお祭りが開催され、この場所で子どもたちの相撲大会が開かれるそうです。



⑧ 南区の風景を満喫

田園風景の中を遠くに雁回山を見ながら歩くことができます。お天気のいい日は、青空のはるか向こうに雲仙を望み、よく見ると、南区役所も見えます。まさに南区、といった感じでしょうか。南区の空気を感じながら、ゆっくりと歩いてみてください。



⑧からみた雁回山 ※表紙の撮影ポイント

memo